

## 公開シンポジウム「イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォームの構築 -これまでの取り組みと今後の展望-」案内

- ・ 主題  
イノベーション創出に向けた計測分析プラットフォームの構築  
-これまでの取り組みと今後の展望-

- ・ 日時  
2018年9月6日（木）14:00～17:00

- ・ 場所  
幕張メッセ コンファレンス会場 301A（JASIS 展併設）

- ・ 主催  
日本学術会議  
日本学術振興会 計測分析プラットフォーム第193委員会  
一般社団法人 日本分析機器工業会  
公益社団法人 日本分析化学会

- ・ 後援  
国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構  
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 COMS-NANO

- ・ 開催趣旨  
計測分析技術は、我が国が得意とするものづくりへの展開を通して、イノベーション創出の基盤を支えてきた。一方、ビッグデータ・AI技術活用の時代を迎えて、計測分析技術を提供する計測分析機器産業界、それを利用する素材・部材産業界は、研究開発の転換点を迎えている。すなわち高い国際競争力を維持・向上するため基盤共有化・オープン化の必要性が高まっていることを受け、我が国の計測分析プラットフォームをどのように構築すべきかが喫緊の課題となっている。

日本学術会議・化学委員会・分析化学分科会では、これまで「最先端分析・計測機器開発センターおよび共同利用プラットフォーム構想」を提案してきている。また、計測分析プラットフォームの構築に向けて、2018年4月から日本学術振興会に「計測分析プラットフォーム第193委員会」が設置された。NEDOのエネルギー・環境技術先端プログラムでは、「ビッグデータ適応型の革新的検査評価技術の研究開発」が実施された（2017年1月～2018年1月）。これらの活動紹介・報告を通して、産業界、アカデミア各方面の現状と期待、構築戦略について幅広く講演頂き議論する。

- ・ プログラム  
14:00～14:05 開会挨拶と前半司会 佐藤 縁（日本学術会議連携会員、産業技術総合研究所）

- 14:05～14:25  
「計測分析プラットフォームの構築：学振第193委員会の設立経緯と今後の展望」  
一村 信吾（日本学術会議連携会員、早稲田大学）

- 14:25～14:45  
「最先端分析・計測機器開発センターおよび共同利用プラットフォーム構想」について  
竹内 孝江（日本学術会議連携会員、奈良女子大学）

14:45～15:05

「AI 技術のナノテク分野・先端計測分野への適用と展望」  
鷺尾 隆（大阪大学）

休憩 15:05～15:20

【「ビッグデータ適応型の革新的検査評価技術の研究開発（NEDO 先導プログラム）」の活動報告】 司会 保田芳輝（堀場製作所）

15:20-15:30

ビッグデータ適応型の革新的検査評価技術の研究開発概要について  
中川 利久（島津製作所）

15:30-15:50

CPS 複合計測分析のプラットフォーム構築に向けて 1  
-データフォーマットの共通化とコンバータの試作-  
安永 卓生（九州工業大学）

15:50-16:10

CPS 複合計測分析のプラットフォーム構築に向けて 2  
-試料ホルダー共通化と精密位置合わせ技術の試行-  
大橋 秀実、杉沢 寿志（日本電子）

16:10-16:30

ナノ材料用の統合的検査評価技術にむけて 1  
-統合的データ表示技術（統合ビューアー）の開発-  
山本 聡（島津製作所）

16:30-16:50

ナノ材料用の統合的検査評価技術にむけて 2  
-計量計測適及性、信頼性評価に基づくビッグデータ解析基盤技術の開発-  
藤本 俊幸（産業技術総合研究所）

16:50～17:00

総括質疑と閉会挨拶  
多持隆一郎（日立ハイテクノロジーズ）

申し込み先：<https://www.jasis.jp/> から申し込み下さい。

内容問合せ先：日本学術会議化学委員会分析化学分科会幹事 竹内孝江  
E-mail:takeuchi\_t[a]cc.nara-wu.ac.jp [a]を@に変更して送信下さい。